

東京港第8次改訂港湾計画について（概要）

■港湾計画とは

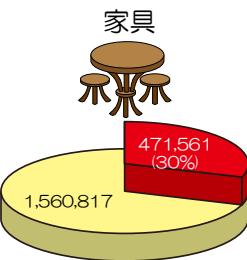
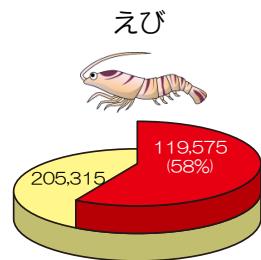
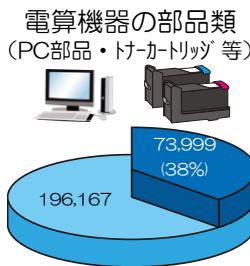
港湾計画とは、港湾管理者である東京都が、港湾法に基づき東京港の今後の施設整備計画や空間利用計画、環境施策などを長期的な視点で定める基本計画である。
第7次改訂港湾計画は平成17年に策定したもので、今回、社会情勢の変化や東京港を取り巻く環境変化を踏まえ、概ね10年後の「東京港の目指すべき姿」や「求められる取組」を実現するため、港湾計画を改訂した。

I 首都圏の生活と産業を支え、潤い・賑わいをもたらす東京港

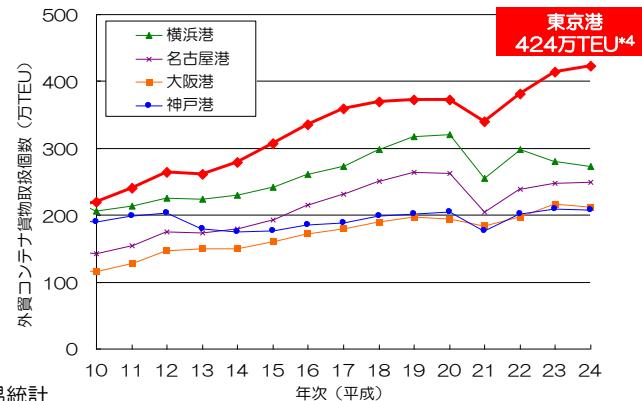
- 日本一の外貨*1 コンテナ*2貨物の取扱個数を誇る国際貿易港として、パソコンの部品・付属品など付加価値の高い製品を輸出するとともに、食料品や家具など生活に必要な物資を輸入し、首都圏4,000万人の生活と産業を支えている。
- 臨海副都心をはじめ臨海地域に多くの公園緑地や魅力ある水辺空間を有し、人々に潤いや賑わいを与えるとともに、多くの人々が訪れるまちとして発展を続けている。
- 災害発生時における被災者の避難や緊急救援物資の輸送など、防災面でも重要な役割を担っている。



生活と産業を支える東京港



外貨コンテナ取扱量が日本一



出典：貿易統計

*1 外貨：外国貿易のこと。
*2 コンテナ：貨物を効率的に運ぶため、規格や寸法が定められた輸送用容器のこと。サイズは長さを表し、20フィート（約6メートル）、40フィート（約12メートル）などがある。
*3 内航：国内の海上輸送のこと。
*4 TEU：コンテナ個数を表す単位のこと。20フィートコンテナ1個を1TEUとする。

II 港湾計画改訂の方針 ～世界に誇る都市型総合港湾・東京港の創造～

港湾機能と都市機能が有機的に結合した魅力ある都市型総合港湾を目指して、物流はもとより、観光、環境、オリンピック・パラリンピック、安全・安心という視点からも施策を体系化する。

①世界とつながる国際貿易拠点港

欧米との国際基幹航路*5のみならず、アジア航路の拡充を図るため、施設の新規整備や既存ふ頭の再編・高度化を進めるなど国際競争力の強化を図り、総合的な物流の効率化を推進する。

②世界から人が訪れる国際観光港湾

東京都心部を背後に擁する優位性を活かし、国際会議の誘致や観光振興等の取組を推進し、魅力あるみなと・まちづくりを展開していく。

③世界をリードする環境先進港湾

臨海部に住み、働く人々、また訪れる都民や観光客など、全ての人々にとって重要な環境資産である緑地や水辺空間の魅力向上に取り組み、人とみなと・海とのつながりを取り戻す。

④世界を魅了し未来を切り開く「スポーツ都市東京」

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」の実現に寄与していく。

⑤世界に誇れる安全・安心なベイエリア

大規模災害発生時においても、津波・高潮から都民の生命や財産を守るとともに、首都圏経済活動の停滞を回避するため、東日本大震災の教訓を踏まえて、さらなる防災力の強化を図る。

*5 国際基幹航路：アジア～北米・欧州間を結ぶ主要な航路のこと。

② 世界から人が訪れる国際観光港湾

○臨海地域の魅力あるみなと・まちづくり

- ・今後開発予定の青海地区北側を中心に、MICE*8・国際観光拠点化を推進するとともに、新たな観光資源を開発し、魅力をさらに高めていく。

○大型クルーズ船の誘致促進

- ・首都の海の玄関口として、大型クルーズ船が着岸可能な新客船ふ頭を着実に整備するとともに、クルーズ客船を誘致し、魅力あふれる臨海地域の更なる賑わいを創出する。

○海上交通ネットワークの拡充

- ・観光と日常の足の両面から臨海部の移動利便性を向上させるとともに、東京港の持つ多彩な魅力を活かした海上交通ネットワークの拡充を推進する。

入港する大型クルーズ客船



臨海副都心と海上バス



③ 世界をリードする環境先進港湾

○良質な環境形成に向けた緑地整備・自然環境再生の推進

- ・立地ゾーンの特徴を活かした緑地・水辺の整備により、水と緑、生物生息環境ネットワークを拡充するとともに、歴史や文化の継承の場の創出、多様な主体との連携による港湾環境の再生を推進する。

○人とみなと・海とのつながりの充実

- ・東京港の持つ多彩な水際を活かし、水辺空間や周辺景観などの特徴を踏まえた空間形成のコンセプトを定め、海と陸との一体性を確保した魅力的な空間整備を推進するとともに、運河ルネサンス*9の取組と連携した賑わいを創出する。

○環境負荷の少ないみなとの実現・都市活動を支える処分場の整備

- ・地球温暖化など広域的な環境問題に対応するため、港湾施設における太陽光発電の導入や先進的な省エネ型の荷役機器を積極的に導入するとともに、水素ステーションの拡充等を推進する。また、快適な都民生活や都市の活力を維持する廃棄物処分場の整備・延命化に努める。

*8 MICE：Meeting、Incentive Travel、Convention、Event/Exhibition の総称。
 *9 運河ルネサンス：利用の低下した運河を観光資源として活用する取組。地域主体のまちづくり等の取組と水域占用許可の規制緩和により、新たな水辺の賑い・魅力を創出。
 *10 耐震強化岸壁：緊急物資輸送や被災者輸送等に活用される岸壁。（東京港で想定される最大級の地震に対応）

キャナルウォークライン (天王洲)

シーサイドアミューズライン (豊洲)

ハーバービューライン (青海)

-凡例-

- キャナルウォークライン
都民の生活に溶け込み、潤い・賑わいのある日常を演出する連続したヒューマンスケールの水辺空間
- シーサイドアミューズライン
観光資源と一体となった水辺めぐり等、充実した休日を演出する都市型水辺エンターテインメント空間
- ハーバービューライン
ダイナミックな港湾風景や海、往来する船や飛行機が非日常を演出する、世界とつながる東京を実感できる眺望空間
- 運河ルネサンスの対象となりうる運河等
- 水と緑・生物生息環境ネットワーク

④ 世界を魅了し未来を切り開く「スポーツ都市東京」

○オリンピック・パラリンピックを契機とした「スポーツ都市東京」の実現

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け万全の準備を進めるとともに、大会終了後は「スポーツ都市東京」の実現に寄与する地区として将来に引き継いでいく。

⑤ 世界に誇れる安全・安心なベイエリア

○災害に強いみなとの整備

- ・大規模災害発生時においても緊急物資の円滑な輸送や首都圏経済活動の停滞を回避するため耐震強化岸壁*10の整備を推進する。

○地震・津波・高潮対策の推進

- ・最大級の地震や台風に加え、都民の生命・財産、首都東京の中核機能を守るため、防潮堤や内部護岸、水門等の海岸保全施設整備を推進し防災力を強化する。

○予防保全型維持管理の推進

- ・港湾施設及び海岸保全施設を健全に長寿命化を図るため、予防保全型維持管理への転換を推進する。

